



第八卷第六號

子供と音楽

近頃或る學者が、子供の音楽に對する關係及び其の男女の差別について研究したる所によれば、音を學び得る力は三歳にして最も弱く、六歳に至つて充分に強くなる由なり、總計百六十一人についての研究の結果を見れば、未だ三歳の頃は男子は二十九パーセント、女子は四十九パーセントのみなるが、六歳に至れば、男子は四十パーセント女子の七十パーセントは種々の音階を歌ひ得ることが出来る、又概して云へば男兒より女兒の方が此の點について大に勝れる所がある。

又子供が音楽に對する嗜好に就て觀察せしに少しく意外なることあり、三歳の男女に就いて見れば、男の方は三十三パーセント女の方は五十三パーセントなり、四歳になれば男兒は三十一パーセント、女子は六十パーセントになり、又五歳に至れば男兒は二十三パーセント女兒は六十五パーセントになり、更に又六歳になれば、男子は二十パーセントに降り、女兒は又五十七パーセントに降る、是に依て見れば男子は三歳より六歳に達するに次第に音楽に對する嗜好の度を弱くし、女兒にありては少しく之れと異なる所ありと云ふ。然れども未だこの研究は日本の兒童の上にも同一なるものと信ずること能はず